



「乳腺センター」の紹介

外科部長
乳腺センター 所長 野崎 善成



何をしている所？

乳腺センターは、乳がんをはじめとする乳腺（乳房）の病気の診断や治療、ケアを行っています。「乳房にしこりがある」「乳頭から分泌物がある」等の自覚症状がある場合や、乳がん検診で精密検査が必要とされた場合の窓口が「乳腺センター」です。

専門的な医療 ～チーム医療の実践～

乳腺疾患、とりわけ乳がんの診断と治療においては画像診断、病理診断、手術、薬物療法、放射線治療、乳房再建手術等、いろいろな専門的知識と技術が必要です。当センターでは日本乳癌学会の乳腺専門医が中心となり、診療科や部署、職種の垣根を越えて患者さんに知恵と技術を結集する「チーム医療」を実践しています。

診断

週に一度「乳腺カンファレンス」を開催し、

マンモグラフィ、超音波検査等の画像所見と手術や組織生検により得られた病理所見とを照らし合わせ、検査に携わった技師、診療医、画像診断医、病理診断医がよく話し合っただけでなく、治療方針を検討しています。患者さんと接する診療医のみで病気の診断や治療方針の決定をしている訳ではなく、チーム医療で対応しています。また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群の遺伝子検査も行っています。

手術

正確なセンチネルリンパ節生検や見た目のきれいな乳房温存手術に加え、形成外科との連携のもと乳房再建手術にも積極的に取り組んでいます。

薬物療法

乳がんに対する薬物療法は、以前とは比べ物にならないほど複雑で専門的になりました。当センターでは乳腺専門医が中心となり、「乳癌診療ガイドライン」等を参考にしながら最新で、

患者さん一人ひとりに最適な治療を提案しています。化学療法室と連携し、安全に治療できるように留意しています。

放射線治療

乳がんの術後再発の予防や再発時の痛みの緩和に不可欠な治療法です。当センターでは放射線治療科と連携して治療しています。

支持療法・緩和ケア

患者さんが抱える治療や病気の進行に伴ういろいろな身体の症状、気持ちのつらさ、生活上の問題等に対し、各領域の専門・認定看護師、緩和ケアチーム、社会福祉士等が「チーム医療」で対応し、患者さんが自分らしく生活できるようにサポートします。また、昨年新たに開設された「アピアランス(外見)外来」と連携して、病気や治療による脱毛等の外見変化にも積極的に対処しています。

他の病院で乳がんの診断・治療を受けている方に対するセカンドオピニオンも取り組んでいます。

皆さんへ

日本ではいまだに乳がんは増加傾向にあり、日本人女性の11人に1人が乳がんにかかるといわれています。しかし、乳がんは早期発見すれば多くが完治しますし、完治しなくても治療が良く効き、長く生きることができる病気です。忘れずに乳がん検診を受けて、乳房の症状がある場合は当センターを受診してください。